

目次

■研究レポート3 「場の社会史からみた動機づけのメカニズムの研究」 〔ネットワーク化社会の動機づけ・他者の視線のない生活空間をめぐる問題〕	46
■研究レポート2 「インフォーマルな場における中学生の意欲研究」 〔学校と家族・中学生の意欲と彼らを取り巻くふたつの「場」〕	32
■研究レポート1 「授業を中心とした中学生の学習意欲研究」 〔学びの場の創造・個性的成長と集団過程の充実が両立する学びの「場」〕	22
研究の概要	21
特集 座談会「意欲の生まれる新しい「場」とは?」	4
各研究レポート	2

刊行にあたって

わたくしどもベネッセ教育研究所は、1980年に設立されて以来、子どもや教師の意識・実態調査、教材研究、教育動向分析などを行ってまいりました。

その調査・研究成果の一部を、小・中・高等学校へむけた子ども実態調査報告書「モノグラフ」、中学教師を対象とした教育情報誌「進研ニュース(中学版)」などの発刊物や、講演会、シンポジウムなどを通して、教育関係者の方々に広くお届けしております。

さて、今回発刊いたしました研究報告書は、中学生にかかる様々な「場」における「意欲」形成の問題に焦点をあてました。中学生は、その生活時間の大半を占める学校という「場」や、家庭、地域といった様々な「場」とかかわりをもって生活していますが、それぞれの「場」がもつ意味や機能も時代や環境の変化に応じて変質していきます。

今回の研究では、学歴信仰が薄れ、「学習」に対する意欲も変化し、学校の「場」がもつ意味も変化が予想される中で、彼らが今、どのようにしてよく生きるために「意欲」を形成し、中学生生活を有意義に送ろうとしているのか、また、どのような環境や条件が必要なのかをあらためて捉え直したいと考えました。

今後の中学生の生活環境のあり方についての検討に本研究結果が少しでも貢献できれば幸いです。

今回の報告内容は、3つの研究で構成されています。研究1は「授業」の場における子どもの学習意欲研究。研究2は授業以外の「インフォーマルな場」における仲間づくりを中心とした意欲の研究。研究3は「場」における動機づけのメカニズムの社会史的研究。報告書は3研究をまとめたダイジェスト版1冊と、各研究の報告書3冊で合計4冊です。研究にあたりましては、研究1を国立教育研究所の奈須正裕先生に、研究2を東京学芸大学助教授で精神科医の田村毅先生に、研究3をライズコーポレーションの岩間夏樹先生にご協力をお願いしました。

なお、末筆ながら、調査にご協力いただきました諸先生方、生徒及びそのご家族の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

ベネッセ教育研究所
代表 島内 行夫